

2023年度退職教員



なかがわ ゆうこ 教授

国際文化学域
英米文学専攻
1995年4月着任



きよた じゅんこ 教授

言語コミュニケーション学域
コミュニケーション表現専攻
2010年4月着任

訃報

●名誉教授 齋藤 稔正 先生 2023年3月11日逝去
〈文学部の在職期間:1974年4月～2005年3月〉
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。現在では約18,000名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学域校友会として、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生の皆様や文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。入会にあたっては、終身会費として1万円の会費の納入をお願いしております。趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展、ならびに、学生・院生の支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

文学部校友会入会手続きについて

2006年度以前にご卒業の方が新規にご入会いただく場合は、文学部校友会事務局までご連絡いただくか、文学部校友会HPの入会申込フォーム(下記URL参照)よりお申込みください。

▶立命館大学文学部校友会事務局

☎ 075-465-8187(文学部事務室内)

✉ ltalumni@st.ritsumeai.ac.jp

🌐 <https://secure.ritsumeai.ac.jp/forms/ltalumni/entry/>



原稿募集

文学部校友会報LETTERS(年一回発行)では「文学部校友の『いま』」、「伝言板(同窓会案内)」などの原稿を募集しています。詳しくは文学部校友会事務局までお問い合わせください。

伝言板

2023年度 地理学・地域観光学同窓会 河島一仁先生ミニ巡検／ミニ写真展
【日時】2023年12月2日(土) 巡検:10:30～12:00 写真展:時間未定
【場所】巡検(清心南門集合・要事前申し込み)／写真展(敬学館2階)
【その他】詳細は同窓会だより、または地理学・地域観光学同窓会ホームページご参照

同窓会への支援

下記に該当する同窓会活動に関する経費を補助します。

クラス・ゼミ等同窓会

正課の小集団科目に関する同窓会
※正課外の同窓会においては
常任幹事会が承認した同窓会も対象

+

専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が
参加するもの

補助内容

同窓会開催、案内状送付、会報や記念誌の印刷、同窓会HP作成など、同窓会活動に関わる経費。

★同窓会開催をご検討されている方は、事前に文学部校友会事務局までご相談ください。

申請団体	補助の根拠	補助金支給上限額
クラス・ゼミ同窓会	①文学部校友会員が3名以上参加するもの。 ②事前申請書に担当教員の確認印。教員に確認が取れない場合は文学部校友会事務局へ相談。	10,000円(実費) ※領収書必須
専攻・プログラム同窓会	①文学部校友会員が3名以上参加するもの。 ②同窓会規約。規約がない場合は文学部校友会事務局へ相談。	100,000円(実費) ※領収書必須

申請方法など、詳細はこちらをご参照ください。

▶同窓会活動・補助一申請書類・流れ

🌐 <http://www.ritsumeai.ac.jp/ltalumni/dousoukai/workflow.html/>



同窓会活動補助費の事前申請がWebでできるようになりました!

▶活動補助費申請フォーム

🌐 <https://secure.ritsumeai.ac.jp/forms/ltalumni/dousoukai/>



デジタル会員証の運用開始!

2022年3月より、デジタル会員証を導入いたしました。

※本サービスは文学部校友会が発足した2007年度以降に卒業され、終身会費をお支払いいただいた「文学部校友のみ」に限定されております。なお、特設ページなどにアクセスするものではなく、ログイン者が「校友会員」であると表示されるだけのものになります。

ログイン方法

会員証をご提示いただく際は、文学部校友会HPで「会員証」ボタンをクリックするか、ブラウザで下記URLを入力し、ログインしてください。

🌐 <https://www.web-dousoukai.com/rits-ltalumni/>

ログインID 学生証番号／会員番号 ※1

パスワード 生年月日(YYYYMMDD形式で入力) ※2



※1 会員番号は本紙郵送時の封筒に記載されている番号です。(Sで始まる番号、または16で始まる番号)

※2 西暦年4桁+月2桁(1月の場合「01」)+日(1日の場合「01」)の8桁



EVENT/
2023年度文学部
校友会総会・懇親会
11月19日開催予定!
くわしくは3ページへ

写真:清心館と桜

会長ご挨拶

3年間にわたるコロナ禍も収束の兆しが見えつつあり、今年5月8日には季節性インフルエンザと同じ「5類」になりました。制限が解除され、ようやく「いつも通り」が少しずつ戻ってくるように感じられます。常日頃、文学部校友会にお心を寄せてくださり、有形無形の大きな応援に感謝しております。

昨年秋の校友会では、高瀬隼子氏をお招きし、在学中の指導教授にあたる谷徹名誉教授と日本文学専攻の瀧本和成教授との鼎談を企画いたしました。大学時代を彷彿とさせる終始なごやかな雰囲気にも包まれ、盛況のうちに幕を閉じました。

近年、文学部出身の方々の活躍がめざましく、社会的に高く評価されています。また女性が多いのもうれしいことです。男女共同参画社会が推進されているものの、日本はジェンダー・ギャップ指数(GGI／2022年 世界経済フォーラム調べ)でいうと世界146か国中116位であり、まだまだ女性が力を発揮しづらい状況にあるといえます。そのような日本にあっても、立命館の新たなことに意欲的に取り組んでいく姿勢や、人をジェンダーという枠ではなくひとりひとりとして見つめていくあり方は、女性たちの活躍を促すひとつの要因ではないでしょうか。

立命館大学文学部校友会 会長 いけのぼう せんこう 池坊 専好



皆さまのご活躍にふれるたび、在学中に学ばれ経験されたさまざまなことが栄養となり、その後の人生に生かされているのだと気づかされます。そしてまた、おそらく校友会員ひとりひとりが、それぞれの仕事に誇りを持ち、仕事に打ち込み高い成果を上げ、より良い社会構築に寄与してくださっているに違いありません。校友生の活動が在校生の希望となり、また在校生の思いに応えられるよう校友生も頑張りたい、そのような良い循環がつくられることを願います。

文学部校友会では、コロナ禍にあっては図書カードをお送りすることで学業に支障が出ないよう支援を行いましたが、今も尚さまざまな理由で学業の継続が困難な状況にある学生は決して少なくありません。同じ学び舎で学ぶ学生たちが安心して大学生活に打ち込めるように、そして校友生にあっては、立命館が絆になり心のよりどころとなりますように、これからも創意工夫を重ねて、皆さまに満足していただけるよう努めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

●2012年 文学研究科 人文学専攻博士課程前期課程 日本史学専修修了
●華道家元池坊 次期家元

学部長ご挨拶

立命館大学文学部校友の皆さまには、日頃より学部へのご支援・ご協力を賜っております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。おかげさまで2022年度には合計 863名の新規の校友会会員が誕生しました。

この5月に新型コロナウィルス感染症が5類に移行され、大学もほぼコロナ禍前の状況にもどりました。2020年度に策定し、運用してきた「新型コロナウィルス感染拡大に対する立命館大学の行動指針(BCP)」の運用がやっと2023年3月31日をもって停止となりました。それでも完全に新型コロナ感染症がなくなったわけではありませんし、発熱等、体調不良を訴える学生がいます。大学ではコロナ禍の2020年度に施設改修をおこない、保健センターに「発熱外来窓口」を設置しましたが、2023年度も引き続き発熱外来の対応をとることになっています。

授業も原則対面で実施されており、キャンパスは活気に満ちています。昔図書館が建っていた衣笠キャンパスの中央は、今や緑の人工芝が敷きつめられた広場となっており、天気の良いお昼時には多くの学生たちが芝生の上に腰をおろして、談笑したり、昼食をとったりしています。学食では長い列ができていますが、日替わりでキッチンカーもでていて、学生が楽しそうに食しているのがみえます。入国制限のためにオンラインで授業を受けていた留学生もキャンパスに

立命館大学文学部長 なかがわ ゆうこ 中川 優子



もどってきており、大勢の外国の観光客がもどってきた京都市内と同じで、さまざまな言語がきこえてきます。海外への留学もほぼコロナ禍前の状況にまでもどっています

コロナ禍で日本も世界も大きく変わりつつありますが、本学はそのような社会にふさわしい大学となるべく、チャレンジデザインR2030という中長期計画を策定し、「次世代研究大学」となるためにさまざまな取り組みを始めています。社会共生価値の創出や大学院の充実、そしてさらなるDX化の推進が例としてあげられます。現在騒がれている生成系AIを含めて、今後でてくであろう新たなテクノロジーについても適切に活用し、学生が主体的に学び続けることが肝要だと考えます。そのためにはAIリテラシーの醸成等が必要となるでしょう。世間では理系重視の風潮が強くなっていますが、文学部としましては、そのような中でこそ、人文科学の学びと研究が必要だと考えます。

これまでの文学部、文学研究科の発展は、校友の皆さまの支えがなければ決してかなわなかったものです。改めて感謝申し上げますとともに、今後も共に学び、成長する文学部に対しての変わらぬご支援をお願い申し上げます。

大学院で学問を探究してみませんか？

立命館大学文学研究科では、幅広い年代の方が大学院生として学んでいます。文学部を卒業された皆さん、学部での学びを深める形で、大学院で学問を探究してみませんか？

文学部研究科では2024年度より新しいコース・専修・カリキュラムがスタートします。これまでの「高度専門コース」を「高度探究コース」に改編し、社会との繋がりを視野に人文学(および情報人文学)を多様に学ぶ「高度探究コース」と、研究者を目指す「研究一貫コース」の2コース体制となります。

11月から「大学院ウィーク」や「大学院進学説明会」などのイベントを開催し、文学研究科の紹介や入試対策、そして文学研究科の教員や現役院生に直接相談できる場などを提供していく予定です。イベントの詳細や申し込み方法などは、「立命館大学大学院 入試情報サイト」に掲載する予定です。ぜひご覧ください！



立命館大学大学院
入試情報サイト
<http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>



立命館大学文学研究科
ホームページ
<http://www.ritsumei.ac.jp/gslt/>



2023年度 文学部校友会 総会・懇親会のご案内

時 2023年11月19日(日)
11:30~15:00(10:30~受付開始)
〔総会 11:30~12:00／懇親会 12:00~15:00〕

所 ホテルオークラ京都(翠雲の間)、およびWeb配信
〒604-8558 京都市中京区河原町御池 TEL.075-211-5111
地下鉄東西線「京都市役所前駅」直結

企画① 本郷真紹先生による講演会(60分程度)

🕒 13:00~14:00 (予定)

会場 Web配信

演題

「僧侶が護持した京都の神社」

ほんごう まさつぐ
本郷 真紹名誉教授
(日本史研究学域・日本史学専攻)

本郷真紹名誉教授

文学部日本史学専攻に所属し、奈良・平安時代を中心とした日本古代史を専門領域とする歴史学者。古代日本における律令国家の形成について、主に王権と宗教の関係から解明する政治史・宗教史のアプローチ法をとる。律令国家の形成に果たす仏教の統合機能という側面のみならず、外来宗教としての仏教と日本の在来信仰との混淆現象である習合にも着目することで、古代日本人の生活史や文化史にも鋭く切り込んでいる。単著に、『白山信仰の源流―泰澄の生涯と古代仏教』(法蔵館、2001年)、『律令国家仏教の研究』(同、2005年)、『古代をつくった人びと 推古天皇・聖徳太子』(奈良県、2017年)がある。『古代の僧尼と寺院―僧尼令と『日本霊異記』』(竹林舎、2018年)など多数の共著もある。



本年度は抽選会も開催します！ また参加者には記念品(お土産)もプレゼントします！ どうぞご期待下さい！

企画② 立命館大学交響楽団による演奏会(30分程度)

🕒 14:00~14:30 (予定)

会場

ミニコンサート

「立命館大学交響楽団 による四重奏」

立命館大学交響楽団

立命館大学交響楽団

立命館大学交響楽団(通称立響)は1955年に創団され、現在約150名の団員を抱えるオーケストラへと成長した。創立当初より、春期・冬期に2回の定期演奏会を開催し、現在公演回数は129回を数えるのみならず、少人数のアンサンブルから大編成のオーケストラまで様々な演奏依頼に応えるなど、対外的に積極的な演奏活動を行っている。2025年に創団70周年を迎える立響は、「国内最高水準のオーケストラ」「地域に根差したオーケストラ」という2つの理念を掲げ、さらなる飛躍を目指し日々研鑽に励んでいる。



参加対象 文学部校友会員※・文学部卒業生

▶ ※立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください(詳細は会報P.8「入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)」をご覧ください)。

定員 会場定員150名(応募者多数の場合には先着順とさせていただきます。) ※Web参加も可能です。

参加費

※Web参加は
無料です。

文学部校友会員 **2,000**円／非会員(入会いただいていない方・同伴の方) **3,000**円

▶ 無料招待枠 2022年度卒業生(2022年9月~2023年3月卒)、卒業後10年(2013年9月~2014年3月卒)、卒業後50年(1973〔昭和48〕年)の文学部校友会員の方は無料でご招待いたします。

※懇親会ではフルコースのランチを提供させていただきます。

懇親会に参加をご希望の方は以下のどちらかの方法でお申込み下さい

Web申込

▶ 立命館大学文学部校友会 HP ▶「イベント」▶「懇親会参加申込」(<https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/italumni/events/>)からお申し込みください。

ハガキ申込

▶ 校友会報「LETTERS(Vol.15)」内の折り込みハガキに必要事項をご記入の上お申し込み下さい(切手不要)。



申込期限

2023年**9月29**日(金)
〈必着〉

最新情報は文学部校友会のホームページやFacebookでご案内させていただきます。

【お問合せ先】立命館大学文学部校友会事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8187 FAX:075-465-8188
E-Mail: italumni@st.ritsumei.ac.jp HP: <http://www.ritsumei.ac.jp/italumni/>



時:2022年11月6日(日曜日)、11時半～14時

所:ホテルオークラ京都(翠雲の間)およびWeb配信

2022年度は、「第167回芥川龍之介賞」を受賞された

高瀬隼子氏(哲学専攻 2011年卒業)をゲストに迎え、懇親会・講演会が実施されました。

コロナ禍のため、アルコールの提供を伴わないランチ形式を採用し、座席数を制限するなど

数多くの配慮を行いながらの開催となりましたが、募集定員数一杯の約120名の校友が参加する大変盛会なものとなりました。



講演会・座談会

講演会では、「小説家デビューから3年経って」と題した高瀬氏の講演を皮切りに、高瀬氏の指導教授にあたる谷徹先生(哲学・倫理学専攻 名誉教授)を対談者に、瀧本和成先生(日本文学専攻 教授)を司会に迎え、高瀬氏の文学作品や現役時代の学生生活、卒業論文などをトピックとする大変貴重な座談会が開催されました。フロアからの質疑応答では高瀬氏の作品に対する解釈や人物設定、作品創作への思いに関する質問がなされるなど、大変濃密で充実した講演会となりました。

文学部教員のミニ講義

文学部教員のミニ講義では座談会に引き続き瀧本先生がご登壇され、水上勉や中原中也、夏目漱石など立命館大学や京都にゆかりのある文学者がクイズ形式で取り上げられました。高難易度のクイズの正解者には高瀬氏や瀧本先生のサイン本、京都名菓などの景品が贈呈され、大変な盛り上がりを見せました。



2022年度の参加者からは、「高瀬氏の人となりがわかる大変貴重な講演会でした」、「過去最高の懇親会・講演会で次年度も是非とも参加したいです!」など、大変好意的な声が多数寄せられました。また、従来に比べて若手の校友の参加を促せたことも、22年度の大きな収穫の一つでした。

文学部校友の「いま」



好きを原動力に

私は今、韓国・ソウルにて現地就職し、PERSOLKELLY KOREAという人材会社で働いています。韓国語をはじめたきっかけは、立命館大学在学中に、漠然とした海外への興味から参加した「キャンパスアジア」という留学プログラムでした。ゼロからのスタートで大変でしたが、人生ではじめて自ら選び工夫しながら、韓国語能力を上達させていった経験が、「自分でもやればできるかもしれない」という小さな自信に繋がりました。新卒ではネームバリューや規模に憧れ日本の銀行に入行し3年間勤めましたが、「韓国語を活かし、自分がより必要とされる環境で働きたい」と思い転職しました。そして、地元の教育会社にて2年間韓国事業を担当し、「現地でよりディープに挑戦したい」という思いから再度転職し現在に至ります。現在は、会社で唯一の日本人コンサルタントとして、在韓日系企業様向けに人材採用のお手伝いをする一方で、日系企業での転職を希望される求職者の方に向け転職のサポートをしています。韓国では、昔に比べ日本語スピーカーが減少しているだけでなく、国内企業・外資系企業との人材獲得競争を背景に日に日に採用が難しくなっています。そんな中、少しでも良いマッチングができるよう日々取り組んでいます。様々な採用プロジェクトを経験しながら、韓国人事・労務分野の知識も習得しつつ、「在韓日系企業での採用分野」において専門家に成長できればと奮闘中です。



さかした しょう たらう
坂下 祥太郎

現代東アジア言語・文化専攻
2016年3月卒業

自分自身と出会った人たちに 真剣に向き合い続けた結果が書籍という形になった

私の職歴は少々変わっています。まず、2010年から日本放送協会大分放送局に丸3年勤務。福岡県出身で同じ九州なのですが、文化の違う土地での暮らしはさながら留学のようでした。そして2013年に美容業界誌を制作・発行する株式会社髪書房に転職。新卒時第一希望だった編集職の経験がほしく門を叩いた会社ですが、8年勤務し、現在同社の業務を請け負いつつ、ライターとしても活動しています。そして、本年『宝塚の座付き作家を推す!』という書籍を上梓いたしました。宝塚歌劇は卒業論文のテーマにもしましたが、この“成果”は目指して得たものではなく日々の積み重ねの結果にすぎません。もっといえば、学部在籍中に「就職後役に立つだろう」という算段で学んだことは1つもありません。卒業論文を書くことは確かに充実した時間でしたが、そもそも私は宝塚音楽学校を受験した経験があります。最も激しく夢に燃えた時期は、立命館大学に出会う前にとくに終わっていました。ですので、立命館大学での4年間は必死に生き学んだ37年の一部に過ぎません。しかし、文学部の先生方は、その“目の前の好奇心に必死な私”に真摯に応えてくださいました。拙著が冠する「座付き作家」は宝塚歌劇の俳優に「先生」と呼ばれる人たちです。私にとっても、そんな「先生」に出会えたことが、4年間で得た唯一の財産です。



ななし ま しゅう こ
七島 周子

学際プログラム・芸術表象領域
2010年3月卒業



『近代初期のイギリス文学と文化』

2つの大きな出来事によって
文学が一気に大衆化した時代

——先生のご専門は、近代初期のイギリス文学・文化ということですね。

竹村 16世紀後半、エリザベス1世が在位し、シェイクスピアが活躍した時代です。この時代の面白さは、それまでは貴族など特権階級のものだった文学が、一気に大衆化した点にあります。

背景に2つの大きな出来事がありました。1つは活版印刷の発明です。一般庶民も文学を楽しめるようになり、それが作品の内容にも影響を与えていきました。もう1つは商業劇場ができたことです。ヨーロッパの演劇は、キリスト教の祝祭行事の余興として、仮設の劇場で上演されてきました。しかしこの時代に宗教行事から独立した娯楽としての商業演劇が始まり、人が集まる都市に劇場が



2009年夏、エリザベス1世の寵臣レスター伯の居城だったケニルワース城址で

作られ、大衆の求める作品が次々と書かれるようになったのです。

宮廷文化が大衆文化と融合していったのも、この時代の面白さです。エリザベス1世は、宮廷の娯楽だった「馬上槍試合」を大衆にも公開しました。古風な衣装をつけた、騎士のコスプレのようなものです。イギリスの大衆の間にアーサー王文学など騎士道ロマンス作品のブームが起こったのは、その影響だと考えられています。

シェイクスピアの作風にも
影響を与えた法学院生たち

——現在の研究内容を教えてください。

竹村 今、注目しているのは、ロンドンにある法曹養成学校、法学院の文芸活動です。法学院生は、寄宿生活の娯楽として、シェイクスピアも所属していた人気劇団を招いたり、自らも演劇作品を作ったりしていました。彼らの作品の特徴は、政治や社会を風刺した、攻撃的ともいえる強烈な皮肉。それが法学院生としてのプライドだったのです。劇団にとって目の肥えた上客だった法学院生の存在は、商業演劇の作風にも影響を与えました。彼らが好むような、より風刺的な作品が多く作られるようになったからです。シェイクスピアの『ハムレット』の主人公も非常に毒舌家で攻撃的。シェイクスピアも商業作家ですから、売れ

筋を狙うのは当然のことだと思います。

当時の誹謗中傷の文化も研究しています。法学院生は人の悪口を歌にして酒場で歌ったり、劇中で表現したりしていました。裁判沙汰にもなっているのですが、どこまでが風刺で、どこからが誹謗中傷なのかの線引きが難しかったようです。今のSNS上のトラブルに通じるものがありますね。

時代ごとの特徴や魅力があると同時に、昔も今も人間はあまり変わらないと感じられるのが文学研究の面白さ。特定の作家や作品ではなく、大きな文化のうねりの中で文学をとらえるのが私の研究です。

『ハリー・ポッター』を
100倍面白く読む方法

——文学作品をより楽しむためのアドバイスをいただけますか？

竹村 書かれた時代や社会状況を考えながら読むことをおすすめしたいです。たとえばシャーロック・ホームズも、近代化が進む時代背景を考えて読むとより楽しめるでしょう。他の作品との関連を考えながら読むのもおすすめです。昨年度ゼミで指導した学生は、卒論でハリー・ポッター・シリーズを取り上げ、主人公ハリーが魔法学校という「聖地」を悪者から取り戻すストーリーには古代叙事詩や中世騎士道ロマンスの影響があることを論じました。このような視点で読めば、文学作品はもっともっと面白くなると思います。

PROFILE

1968年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程後期課程(英米文学専攻)研究指導認定退学。姫路獨協大学教授、立命館大学准教授を経て2013年より現職。主要著書に『グロリアーナの祝祭-エリザベス1世の文学的表象』(2018年)などがある。趣味は宝塚歌劇鑑賞。全5組の公演を各1回、最良の組は3回観劇。シェイクスピア原作の作品は、希望する学生と一緒に劇場へ向かう。



「私の学生時代」というお題をいただき、45年前の自分を思い起こしていたら、現在では必需品として身のまわりにあるのに、当時はなかったものは何だろうと考え始めてしまった。すぐ頭に浮かんだのはスマホだ。当時、携帯電話さえ存在せず、部屋に個人の電話がついている学生もほとんどいなかった。私の場合も、電話は下宿の大家さんが取り次いでくれて、電話がかかってくると「高橋くん、電話です」と呼び出され、大家家族が使う受話器で会話していた。電話をかける場合には、小銭をポケットに突っ込んで、近くの公衆電話まで行かなければならなかった。当時、それが当たり前だったからとくに不便さも感じなかったが、困るのは外出時に待ち合わせの人に連絡できないことだ。しょうもない理由で遅れてきたデートの相手を四条河原町で2時間近く待ち続けたという体験を私は学生時代にすることがある。いまだったら、デートの約束さえ取り付ければ、当日の天候などを勘案してLINEで予定を立てながら、ネットでイベントやレストランを探し、ナビに導かれながら、待ち合わせ場所に到達できる。なんとも便利な世の中になったとつくづく思う。

一方で、電話がかかってきたと呼ぶ声は現在の学生の生活から消え去った。今でも私の記憶のなかで響き渡っている「高橋くん、電話です」という下宿のお婆さんの声は、その情景とともにノスタルジーを掻き立てる。この失われた音と情景を現在の学生は共有していないために、ついつい「昔はよかった」とこぼしてしまう。たしかにスマホは世の中を便利にしたかもしれないが、五感を通した豊かなコミュニケーションを失わせているのではないだろうかと思ってしまう。でも、電話が普及して手紙という媒体を凌駕していた時代にも、「大人」たちは「昔はよかった」と似たような理屈をこねていたのだろう。

ところが今では若者自身も「昔はよかった」と語り始めている。私たちの世代は親世代より豊かな未来を生きるだろうと確信していたが、いまの若者は悲観的で、将来は現在よりも悪化するだろう、それどころか破局にいたりかねないという未来像さえ描いている。でも、これは世代間で「昔はよかった」連合を形成するチャンスではないだろうか。私たちの世代が若者たちと共闘できるとすれば、未来を明るくしようと唱導することではなく、破局をもたらしかねない現在を作ってきた私たちが未来ある世代に対して責任を取ることである。この責任は重い。

2022年度 文学部ゼミナール大会 文学部校友会会長賞 受賞者コメント

国鉄改革のいきさつ

文学部 日本史学専攻 4回生(受賞当時:文学部 日本史学専攻 3回生)

とがわ ゆうた
戸川 湧太

この度、文学部ゼミナール大会において栄誉ある「文学部校友会賞」をいただくことができました。大変光栄に存じますとともに、今後も意欲的に研究活動に取り組みたいと気持ちを新たにしているところです。

私の研究テーマは「国鉄改革のいきさつ」です。今回の発表では、国鉄改革がなぜ単なる民営化ではなく「分割」民営化の形で帰結したのか、中曽根内閣期に書かれた行政文書や、第二次臨時行政調査会(いわゆる「土光臨調」)の審議委員の回想などから解き明かすことを試みました。10分という短い発表時間の中でお伝えできた内容はそれほど多くありませんでしたが、参加者の方々には興味深く聞いていただけたと感じています。発表の質疑では、先生方より今後の研究を進めるうえでのヒントとなるご指摘をいくつもいただき、改めて本大会に出場することの意義を認識することができました。

今後このような素敵な発表の場が設けられることを願い、受賞のご挨拶といたします。



学
生
時
代

No.001

私
の



たかはし ひでとし
高橋 秀寿

名誉教授
(ヨーロッパ・イスラーム史専攻)